

ハクセル美穂子のポリティカル・テーマ

100年先も

「いわて」が「いわて」であるように、
みんなで創る「いわて」

岩手県議会議員

ハクセル美穂子

いわて県政レポート

2018
春号

Growing
Together!
みんなで創る「いわて」

ハクセル美穂子 これまでの活動

2017年
12月

2018年
1月

2018年
2月

防災・減災対策調査
特別委員会県外調査

南海トラフ巨大地震が想定され、防災・減災に積極的に取り組んでいる静岡県を訪問。静岡大学では、近年の豪雨災害事例などに加え今後特に生かすべき教訓や対策等を、また、浜松市では自主防災隊の活動内容、隊員育成の取り組みや役所の関わり方に関する取り組みについて調査しました。



駿河湾の特徴をガイドさんから聞く私



沼津港大型展望水門「びゅう」

議会運営委員会全国調査

平成29年9月に会派の議会運営委員に就任しました。そして就任後初めての全国調査。他県の議会運営は岩手県の取り組みとも異なり、学ぶところがたくさんありました。三重県議会では、みえ県議会出前講座やみえ高校生県議会などの取り組みについて、また、滋賀県議会では、住民参加の促進や災害対応の取り組みを調査いたしました。



みえ県議会にて



滋賀県議会にて

商工文教委員会全国調査

ラグビーワールドカップ2019の共同開催地である熊本県で、国際スポーツ大会開催に向けた取り組みについて調査を行いました。併せて、熊本地震による観光等への影響と復興の取り組みを調査いたしました。熊本城の傷跡は深かったのですが、Youtube等ソーシャルメディアを利用し震災前の熊本城の様子が見られるような取り組みや多言語対応などから、震災を乗り越えようという熊本県の皆さんの力を感ずることができました。岩手県も大いに参考にすべき事がありました。



熊本城にて



名門大洋フェリー視察

2月定例会

「ハクセル美穂子」三度目の一般質問に登壇!私の質疑の内容は裏面で詳しくご説明いたします!

ハクセル美穂子
県政報告会

1月27日、雫石町内に「ハクセル美穂子県政報告会」を開催しました。一年間の議員活動から見てきた岩手がこれから取り組むべき課題や方向性を参加した皆さんと共有しました。100人を超える皆さんとともに、岩手県の将来に向けて取り組んでいこうという一体感を感じられる報告会となりました。参加された皆さん、ありがとうございました。

三回目の 一般質問に登壇！

2月15日から34日間にわたって県議会2月定例会が開会され、私は今回で3回目となる一般質問に登壇しました。前回に引き続き【一問一答方式：質問者の質問のあとすぐに答弁者が答える質問方法】で80分間、知事や執行部幹部職員と質疑を交わしました。

今回の一般質問は、農業と奥産道、そして高校再編といった県政課題を中心に質問しました。

私の質問：今のび盛りのものづくり産業に負けない、力強い農業振興策が必要と考えるが、知事の農業振興への考えを伺う。

答弁：本県の農業は、食品産業、流通業等の他産業への波及が大きいす野の広い産業であり、地域経済を支える基幹産業の一つとして、今後も持続的な発展を図っていくことが重要と考えている。そのため、県では、地域農業の核となる経営体の育成や、生産性・市場性の高い産地づくりなどに取り組んできた結果、平成28年の農業産出額は目標を189億円上回る2,609億円となっている。今後さらに産出額を増やすために、県オリジナル農産物(県産米や県産りんご)のブランド確立や、加工・業務用野菜の生産体制の強化が必要と考えており、新たに「野菜販売額1億円産地」の形成を目指

し「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」などを当初予算に盛り込んだ。こういった施策を関係機関・団体と一体となって推進し、農業者が意欲と希望を持てる農業の実現に取り組む。

私の質問：県が工事を中止とした後、ゲートが設けられ自由な往来が制限されている県道東八幡平線、通称「奥産道」の今後の利活用策に対する知事の考えを伺う。

答弁：県では、平成10年に道路工事再開を断念した後、整備済の道路利用に伴う環境負荷の軽減による自然環境の保全を基本的な考え方とする活用計画を策定し、平成19年6月から整備済の道路と連絡路を一連の登山ルートとして歩行者に開放している。また平成24年度からは、小学生等の環境学習や高齢者等が自然とふれあう機会の創出を目的とする場合は、ゲートから連絡路入口までの区間について自動車の乗り入れを可能としている。その結果、利用者は増加傾向にあり、当面は、現在の利用形態を継続するが、今後の更なる利活用のあり方については、沿線市町、観光や環境分野の関係機関や団体からの意見も伺い検討を重ねる。

私の質問：高校再編を考える中で、中学校と高校の交流の活発化や適切な情報交換ができる場を作っていくことは極めて大切だと考えるが、県教委としてこのことをどのように考えているのか、また今後そういった取り



組みに対してどのような支援を行うのか伺う。

答弁：いわての復興、地域の発展を支え、ふるさとを守る人材の育成は大変重要であり、今般の再編計画もそうした方向性で作成した。高校と地域、中学校がこれまで以上に連携し、深く関わりながら生徒一人一人の学力を高め、豊かな人間性や社会性など生きる力を育成していくことが重要と考える。近年、地域が地域を支える人材育成に主体的に取り組む動きもあることから、県教委としてもこうした場に積極的に参加し、意見交換等を行ってきている。岩手だからこそできる教育、やるべき教育という考えも念頭に置きながら、今後とも、様々な機会をとらえて高校の教育内容や魅力、現状をなどを地元の中学生、保護者に伝えとともに、高校と地元自治体、中学校等との連携を深め、地域と一体となった教育活動の展開に取り組む。

他に、野生鳥獣対策、体験型観光の振興、保健福祉政策と働き方改革について、質問をしました。

2018春号コラム COLUMN

ハクセル美穂子の公約の一つ、 子育てサービスの充実に基づく施策が実現！！

岩手の大地で子育て応援！『岩手★広域予防接種パスポート』始まりました！

子育てサービスの充実にかかる施策の一つとして、以前から質問を重ねてきた小児予防接種の広域化が【岩手県広域接種パスポート】という形で実現、今年4月から運用が始まりました！

小児科医の地域偏在が進む岩手県。

小児科医がいない市町村にお住まいの子育てファミリーにも、里帰り出産をしている方々にも、予防接種が利用しやすい環境の整備を進めます。広域予防接種パスポートは、感染症対策の推進と子育て支援の二つを進める取り組みとして期待されています。

小児予防接種の広域化実現のために、県は、平成29年1月からワーキンググループを設置し、検討を重ねてきました。その結果、今年4月から【岩手県広域接種パスポート】が始まることになりました。

広域予防接種パスポートは、住所地の市町村にかかりつけのお医者さんがいないお子さん、お母さんの里帰り出産や施設入所のために、住所地以外の市町村に長期滞在しているお子さん(いずれも県内に限る)を対象に、お住まいの市町村で利用を希望される方に【広域接種パスポート】を交付します。そのパスポートと「予防票」「母子手帳」の3つを持っていくと、県内の協力医療機関であればスムーズに定期予防接種を受けることができます。協力医療機関は、県内で統一された【広域接種番号】で必要な情報を円滑に確認することができる仕組みです。

ただし、住所地市町村が負担する額(小児予防接種は市町村が公費負担しています)は市町村によって異なります。市町村負担額との差額は、医療機関の窓口でそれぞれご負担いただきますのでご注意ください。

広域予防接種パスポートの導入は、予防接種を受けるお子さんの安全性確保とご家族の利便性向上のみならず、煩わしい申請書交付や確認事務が軽減されると各医療機関からも期待されています。ぜひ、ご活用ください！



ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月8日 岩手町生まれ
家族/アメリカ人の夫、4人の息子(小6、小4、小3、年長)
職業/英会話教室経営
趣味/読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
学歴/岩手町立御明神小学校[S62卒]・岩手町立東石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H45卒]・岩手大学農学部[H9卒]
経歴/平成9年 岩手町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove IntI設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選

ハクセル美穂子オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>

